

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900022		
法人名	株式会社 サンシャイン		
事業所名	グループホーム 紅葉の里		
所在地	夕張市紅葉山235番地11		
自己評価作成日	平成29年2月14日	評価結果市町村受理日	平成29年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195900022-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0195900022-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族様の意向に沿った、もしくは、その人らしい生活の維持が難しくなっている利用者様が多いです。  
この様な状況下ではありますが、今後もその人らしい生活を自分で選択し自分の力を維持できるよう職員は、できないことに対して支援することで安心且つ快適でゆったりとした暮らしの場の提供を目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 紅葉の里」は、新夕張駅から徒歩で10分程の自然に恵まれた静かな住宅地に立地している。近隣には、日常品の買い物もできる道の駅「夕張メロード」もある。居間は大きな窓に面した明るくゆったりとした造りで、広いウッドデッキも設置されている。冬季以外はウッドデッキに椅子やテーブルを置いて、ゆっくり寛ぎながら散歩する近隣住民と会話を交わして交流を深めている。トイレも新たに1ヶ所増設し使いやすい共用空間になっている。管理者は、分からないことがあればすぐに市役所に相談しながら運営やケアに取り組むなど、日頃から行政と情報交換しながら協力関係を築いている。運営推進会議は、消防署員から地域の防災について情報を貰ったり、市役所職員から災害備蓄品に関するアドバイスを受けるなど役立つ情報を得ている。協力医の往診が毎週あり、内科以外の診察も可能で、緊急時にもすぐに対応できる医療体制が整えられており、利用者や家族の安心感につながっている。法人の作成した献立に沿って、彩りのよい、バランスの取れた美味しい家庭的な食事が提供されている。職員は、常に一人ひとりの利用者の意思を確認して本人の意向に沿ったケアを行いながら、残存能力を活かして自立に向けた温かな支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えるところに掲示しているが、振り返ることが少なく実践に繋がっているとはいえない。	法人共通理念を事業所理念として捉え、廊下に掲示している。職員は、夜勤や遅番勤務の時に掲示してある理念を見て再認識することもある。今後は、法人理念に沿って事業所独自のケア目標の作成を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や地域の方々との交流が思うようになっていない。今後の課題となっている。町内会には加入している。	地域の行事には天候などの事情で参加できていないが、散歩をしている方とウッドデッキで話をしたり、花壇を見ながら会話をすることがある。今後は地域包括支援センターなどと相談して、ボランティアも受け入れたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	改まってそのような機会はありません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、6回の開催である。会議では、事業所からの報告事項が主となっている。意見・助言があればそれを反映させ、サービス向上に努めている。	災害備蓄品の報告や感染症などについて話をしたり、消防署員から地域防災について情報を得ている。全家族に会議案内と議事録、資料を送付している。夏祭りと同じ日に会議を開催するなど工夫しているが、家族の参加は少なくなっている。	会議案内にテーマを記載して送付し、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは、入所見学・新規受け入れ等連絡を密にしている。必要に応じて相談・情報交換等している。親切丁寧に応じていただいている。	管理者は、市役所を訪れて入居者の退去先についてケースワーカーに相談したり、書類の提出などで支所に出かけている。事業所の夏祭りに市役所職員も参加するなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行われていません。日中は、非常時以外玄関の施錠はせず 過ごして頂いています。	新たに「身体拘束ゼロへの手引き」をマニュアルに整備し、各職員にも配布している。全職員で身体拘束について研修する時間は取れていないが、今後は具体的な事例に沿って、禁止行為11項目について職員間で再確認していきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自分たちの介護や支援を行っている事をお互いにまた、水ら虐待ではないか、見過ごされていないか、チェックし注意を払い、防止につとめている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に学ぶ機会はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用前に、訪問して頂き、不安や疑問点等をお話しして頂き説明しております。契約時には、時間をかけ説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には、何でも話して頂けるような雰囲気作りを普段からしております。不満や苦情が言いにくいのか少ない。	家族の来訪時や電話で利用者の近況を話しながら、意見や要望を聞き取るようにしている。今後は定期的に個別便りを発行して、家族に利用者の様子を伝えていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見や提言を発現しやすい雰囲気を作り、だされた意見は、極力反映できるよう努めております。申し送り書等を活用している。	管理者は、日々の勤務の中や夜勤時に各職員と話しをしながら提案や意見を聞き取り、運営やケアに反映させている。部長が来訪した時に職員と話しをする機会もあり、本部に意向を伝えることができる環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社とのミーティングを開催された。横・縦の繋がりを作る工夫がなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したいが、なかなか研修に参加できないのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は、あまりないのが実情で、できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分かはわかりませんが、一人ひとりが安心できる関係づくりの為に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関係づくりも、できていると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や関係機関と相談しながら本人が安心して利用できるような対応している。早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず、お互いに共同しながら和やかな生活ができるように声掛けしている。本人と一緒に家事等を行いながら、職員が学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとりの様子を文書や電話、訪問時に伝えることで家族との協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人は、数回来て頂いてはいる。努めてはいるが情報が不十分で継続されていないことがある。	親戚から年賀状が届いたり、家族と一緒に自宅に帰宅することもある。また、買い物や外食に出かける方もいる。職員と一緒に選挙に出かけたり、馴染みの美容室に通っている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合った者同士で過ごす場面を作るなど職員が調整役を努めているが、孤立した場面も見られることがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	具体的な相談、支援を行ったことはありません。今後機会があれば必要に応じて行きたいと思えます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の話を聞くようにし、思いを把握しながら本人の希望に沿ったケアができるように努めています。	会話や仕草、目線などから思いや意向を把握している。家族から情報を得て課題分析シートを作成しているが、趣味や嗜好は記録していない。	課題分析シートを活用して趣味や嗜好の変化も追記しながら、介護計画の見直し時に定期的に更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の話し、本人の話しから把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の過ごし方等を記録し、職員間で共有し把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画を作成している。日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。細かい見直し等が不十分である。	利用者担当職員と計画作成担当者が中心になり、6か月ごとに評価して介護計画を作成している。今後は評価用紙に各職員が記載し、全職員でモニタリングを実施したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、食事・水分・排泄の身体的状況、暮らしの様子が記載されている。職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに生かしているが、記録が簡素化しすぎて情報が不十分なこともある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況に合わせて、その時その時に必要な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市職員・消防・生活保護職員・居宅介護支援事業所職員等と協力しながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療(Dr)及び訪問歯科診療(Dr)と相談しながら、病状や健康の管理をしている。	全員が協力医の往診を受けており、内科以外の診察も可能なため、現状では殆ど外部に受診することはない。急変時の往診体制も整っている。受診内容は、個別に記録している。	



グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療(Dr)に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、支援に関する情報を医療機関に提供している。家族とも情報交換をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『看取り』については、ご家族様に意向を伺い同意を得て終末支援に関する覚書当を今後作成を検討中である。	利用開始時に、体調変化に応じて主治医と相談をして家族の判断の下に方針を決めることを伝えている。主治医の対応が可能であれば、家族の意向に沿って看取りも行いたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	周知しているつもりですが、咄嗟の時に対応できるよう、定期的な訓練が求められていると思います。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っており、災害時の避難に備えております。地域住民の方々との関係が希薄なので不安があります。	今年度は、3月に夜間の火災を想定した避難訓練を消防署の協力を得て実施する予定である。発電機などを整備しているが、食料品が不足しているのて更に充実させたいと考えている。	地域との役割分担を明確にし、消防署指導の下に住民の参加を得て避難訓練を行うよう期待したい。地震時の危険な場所の確認、ケア別の適切な対応について職員間で確認するよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーに配慮した支援ができるように努めている。誘導の言葉かけには、本人を傷つけない様につとめている。	利用者が居室にいる時間帯に申し送りを行い、私的な事は事務所や居室で確認している。トイレへの声かけは羞恥心に配慮するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向が示せるよう本人に合わせた言葉かけを心掛けて愛煙しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。本人の思いを把握し、その人なりの体調に配慮しながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、外出着に着替えている。いつも同じ服を着て今う利用者様には新しい服を着る様促すなど、少しでもおしゃれをして頂いている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き入れている。職員も同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	法人の献立を基に、五目ご飯やおでんなどの品数を多くして栄養バランスに配慮した食事を提供している。本人の誕生日には好きな料理とケーキでお祝いしている。おやつ作りに参加することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、記録している。食事は、バランスを考えて作っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要時は、訪問歯科医師に相談しながら支援をしている。毎食後、自力または、介助を受け全員が口腔ケアに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて、さりげなく誘導してトイレで排泄できるよう支援している。	排泄記録でパターンを把握し、早めの声かけや誘導を行い、昼夜ともトイレでの排泄を支援している。介助の時も、声かけしながらできる部分を利用者と一緒に行い、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表もあり、水分チェック表にて水分摂取量に気をつけている。運動量は、検討しなければならない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制。時間帯は、午後からになるが、早く入りたい人、遅い入浴を希望する人を把握し声掛けで対応している。	同性介助で週2回の入浴を支援し、熱めの湯が好みの方を最初にするなど、希望や身体状況で順番を決めている。洗髪や体を洗う時でもできる部分を行って貰い、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの睡眠パターンを把握し、一日の生活リズム作りを通じた安眠策をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務室で保管。服用時に手渡ししている。飲み込み等の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮できるように、できそうな事ややりたい事をして頂いている。感謝の言葉を伝えるようにしている。		

グループホーム 紅葉の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、出かける機会を作ることにはできませんが、主にご家族様と一緒に外出しています。桜、紅葉見学等へは、外出していますが、次年度は、もう少し外出できるよう努力をしていきたい。	近辺の散歩や、居間からウッドデッキに出てお茶を飲んだりアイスクリームを食べて外気浴をしている。数人ずつ交代で季節の花見や紅葉狩りに出かけ、今年度は大夕張ダムを見学している。家族の協力でお食や栗山方面で買い物を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名ですが、買い物をした時には自分で支払っています。家族の了解を得て、少額のお金を持っている利用者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話をかけています。小包や手紙が届いた時には、報告の電話を掛けることを勧めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間等は、家庭的な雰囲気を感じています。また、季節感も感じられる工夫もしています。陽射しが眩しいと感じたときには、カーテンを閉めるなどの配慮を行っています。	共用空間は掃除が行き届いて全体的に清潔感がある。居間には窓が多く、屋外の景色を眺めることができ開放感もある。トイレを増設して3ヶ所のうち2ヶ所は車椅子対応になっている。壁には季節の装飾などを飾り、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファ・食卓椅子等、気の合った方と過ごしたり、一人ひとり好きながしよで過ごせるようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの人は、数回来て頂いてはいる。努めてはいるが情報が不十分で継続されていないことがある。	クローゼットとベッドを用意し、室内にはテレビ、仏壇、二人掛けのソファが持ち込まれている。低めの整理タンスの上に家族の写真や好みの物を飾ったり、馴染んだ食器棚にカップ類を入れて使用するなど、その人らしい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室・廊下の要所に、手すりを付け一人でも安全に歩けるようにしている。台所は、対面キッチンで、安全確認や下膳等ができる。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム 紅葉の里

作成日：平成 29年 3月 31日

市町村受理日：平成 29年 4月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	会議案内にテーマを記載して送付し、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。	次年度より実施する。	・案内状送付時にテーマ等を記載する。 ・参加できないご家族様の意見等を活用していく。	12か月
2	23	課題分析シートを活用して趣味や嗜好の変化も追記しながら、介護計画の見直し時に定期的に更新するよう期待したい。	次年度より実施する。	・介護計画の見直し時に記載する。	12か月
3	35	地域との役割分担を明確にし、消防署指導の下に住民の参加を得て避難訓練を行うよう期待したい。地震時の危険な場所の確認、ケア別の適切な対応について職員間で確認するよう期待したい。	次年度より実施したい。	・会社と協議して検討する。 ・職員間で確認する。	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。